



2018年3月 第6号 生野高校図書部

分類	書名	著者名	出版社
210・6	近代日本 150 年	山本 義隆	岩波新書
331・6	マルクス 資本論の哲学	熊野 純彦	岩波新書
198・992	内村鑑三 悲しみの使徒	若松 英輔	岩波新書
316・2	イスラーム主義	末近 浩太	岩波新書
126・9	ガンディー平和を紡ぐ人	竹中 千春	岩波新書
617・4	茶と琉球人	武井 弘一	岩波新書
795	棋士とAI	王 銘苑	岩波新書
502・1	技術の街道をゆく	畑村 洋太郎	岩波新書
332・107	官僚たちのアベノミクス	軽部 謙介	岩波新書
332・107	地元経済を創りなおす	枝廣 淳子	岩波新書
312・37	ベルルスコーニの時代	村上 信一郎	岩波新書
289・3	ナポレオン	杉本 淑彦	岩波新書
331・19	経済数学入門の入門	田中 久稔	岩波新書
369・31	津波災害 増補版	河田 恵昭	岩波新書
159・5	君たちはどう生きるか	吉野 源三郎	マガジンハウス
367・21	漂流女子 にんしんSOS東京の相談現場から	中島 かおり	朝日新書
289・2	フンボルトの冒険 自然という<生命の綱>の発明	アンドレア・ウルフ	NHK出版
209	史料から考える 世界史20講	歴史学研究会	岩波書店
209	ビッグヒストリー われわれはどこから来て、どこへ行くのか	デヴィッド・クリスチャン	明石書店
210・6	戦争まで 歴史を決めた交渉と日本の失敗	加藤 陽子	朝日出版社
336・4	図で考える。シンプルになる。	櫻田 潤	ダイヤモンド社
457・87	鳥類学者無謀にも恐竜を語る(生物ミステリー)	川上 和人	技術評論社
357・29	考える障害者	ホーキング青山	新潮新書
757・04	白百(はくびやく)	原 研哉	中央公論新社
810・4	なくなりそうな世界のことば	吉岡 乾	創元社
802	翻訳できない世界のことば	エラ・フランシス・サンダース	創元社
916	徴兵体験百人百話	阪野 吉平	17出版
002・7	身の丈にあった勉強法	菅 広文	幻冬舎

493・72	発達障害の基礎知識	宮尾 益知	河出書房新社
210・1	漫画版 日本の歴史(1～10巻) 寄贈本!	ありがとうございました!	集英社文庫
913・6	リピート WHEEL OF FORTUNE	乾 くるみ	文春文庫
913・6	鳩の撃退法(上・下)	佐藤 正午	小学館文庫
913・6	首折り男のための協奏曲	伊坂 幸太郎	新潮文庫
913・6	謎の館へようこそ 白	東川篤哉ほか	講談社文庫
913・6	謎の館へようこそ 黒	はやみねかおる他	講談社文庫
913・6	7人の名探偵	綾辻行人ほか	講談社文庫
913・6	嘘を愛する女	岡部 えつ	徳間文庫
913・6	おらおらでひとりいぐも 芥川賞受賞!	若竹 千佐子	河出書房新社
913・6	百年泥 芥川賞受賞!	石井 遊佳	新潮社
913・6	銀河鉄道の父 直木賞受賞!	門井 慶喜	講談社
			



●君たちはどう生きるか 吉野 源三郎著 マガジンハウス

1937年に出版されて以来、数多くの人に読み継がれてきた、吉野源三郎さんの名作「君たちはどう生きるか」。人間としてどう生きればいいのか、楽しく読んでいるうちに自然と考えるように書かれた本書は、子供はもちろん多くの大人たちにも共感をもって迎えられてきました。勇気、いじめ、貧困、格差、教養、、、昔も今も変わらない人生のテーマに真摯に向き合う主人公のコペル君と叔父さん。二人の姿勢には、生き方の指針となる言葉が数多く示されています。

そんな時代を超えた名著が、原作の良さをそのままに、マンガの形で、今に蘇りました。初めて読む人はもちろん、何度か読んだことのある人も、一度手にとって、人生を見つめ直すきっかけにしてほしい一冊です。

●嘘を愛する女 岡部 えつ著 徳間文庫

大手食品メーカーに勤め、業界の第一線を走るキャリアウーマン・川原由加利（演：長澤まさみ）は、研究医で優しい恋人・小出桔平（演：高橋一生）と同棲5年目を迎えていた。由加利が結婚を意識し始めたある日、桔平はくも膜下出血で倒れ、意識不明の状態でも病院へ運ばれてしまう。訪ねてきた警察官は、さらに由加利に衝撃の事実を告げる。桔平の所持していた身分証類はすべて偽造で、職業はおろか名前すら、すべてが「嘘」だったというのだ。 「あなたはいったい誰？」

騙されていたショックと、彼の正体への疑問を拭えない由加利は、私立探偵の海原（演：吉田鋼太郎）に依頼し、桔平の身元調査に乗り出す。やがて、桔平が書きかけていた700ページもの小説が見つかる。そこには、誰かの故郷を思わせる描写や、幸せな家族の姿が描かれていたのだった。小説の舞台が瀬戸内海のどこかであることをつきとめた由加利は、桔平の秘密を追うことに……。なぜ桔平はすべてを偽り、由加利を騙さなければならなかったのか。

そして、彼女ははまだ病院で眠り続ける「名もなき男」の正体に辿り着くことができるのか。

長澤まさみ、高橋一生 共演で話題の映画『嘘愛』を完全小説化。

小説で明かされるもうひとつの真実とは。



● 銀河鉄道の父

門井 慶喜 著

講談社



この小説に描かれた宮沢賢治はごく普通の青年で、そこがとても新鮮である。生き生きとした等身大の賢治像が立ち現れたのは、父である政次郎の視点から描くという構造によるところも大きい。この父がじつに偉大だ。賢治は家業の質屋が肌に合わず自分で事業を起こそうとしたり、国柱会の布教活動に熱中したりする。若さゆえの前のめりだ。父はそんな賢治を厳しくたしなめつつも援助を惜しまない。子が病気になれば病院に泊まり込んで看病までする。成功した実業家であり家族思いの父。偉大過ぎる親を持つ息子が、もがき苦しんだ末に儂く美しい詩と童話を紡ぎ出したことは、切なくも運命的だ。父を超えたい、という不変の命題に賢治も向き合っていたかと思うと、彼の作品にもいちだんと親しみが湧いてくる。

評者:石原さくら(週刊朝日 掲載)

● おらおらでひとりいぐも

若竹 千佐子 著 河出書房新社

74歳、ひとり暮らしの桃子さん。おらの今は、こわいものなし。←ラストはホロリときたなあ。
結婚を3日後に控えた24歳の秋、東京オリンピックのファンファーレに押し出されるように、故郷を飛び出した桃子さん。身ひとつで上野駅に降り立ってから50年——住み込みのアルバイト、周造との出会いと結婚、二児の誕生と成長、そして夫の死。「この先一人でどやって暮らす。こまったあどうすんべえ」←東北弁の文章がなんともいえない味を出しているなあ。
青春小説の対極、玄冬小説の誕生！ 玄冬小説とは……歳をとるのも悪くない、と思えるような小説のこと。
新たな老いの境地を描いた感動作。第54回文藝賞受賞作。主婦から小説家へ。 63歳、史上最年長受賞。

● 百年泥

石井 遊佳 著

新潮社

私はチェンナイ生活三か月半にして、百年に一度の洪水に遭遇した。アダイヤール川氾濫、市内ほぼ全域浸水か。橋の下には猛烈な勢いで逆巻く川、橋の上にはそれを見物しに雲集したとてつもない人びとの群れ…こうなにもかも泥まみれでは、どれが私の記憶、どれが誰の記憶かなど知りようがないではないか？ 洪水の泥から百年の記憶が蘇る。かつて綴られなかった手紙、眺められなかった風景、聴かれなかった歌。話されなかったことば、濡れなかった雨、ふれられなかった唇が、百年泥だ。大阪生まれインド発、けったいな荒唐無稽—魔術的でリアルな新文学！ 第158回芥川賞受賞。

● 棋士とAI

王 銘苑 著

岩波新書

韓国のイ・セドル、中国の柯潔と、次々にトップ棋士を大差で降したアルファ碁とは何か。グーグル傘下のディープマインド社は満を持して盤上から社会へ打って出た。未曾有の衝撃の先頭に立つ囲碁界でソフト制作にも関わる日本棋院の人気トップ棋士がアルファ碁の技術革新の意味、人間とAIの未来、囲碁の面白さを披露する。

蔵書点検・学力検査・および採点業務のため3月は閉館する日が多いですが、
新着本がぞくぞく入ってきますので借りにきて、休み中は読書を楽しんでみてください。

開館日 ; 3月6日(火) から 8日(木) 通常の間時帯

3月9日(金) 13時まで 3月20日(火) 10時より

3月22日(木) 終業式 通常の間時帯

4月9日(月) 始業式 通常の間時帯



●7 人の名探偵

新本格 30 周年記念アンソロジー (講談社ノベルス)新書 綾辻 行人ほか



テーマは「名探偵」。新本格ミステリブームを牽引したレジェンド作家による書き下ろしミステリ競演。ファン垂涎のアンソロジーが誕生! 綾辻行人「仮題・ぬえの密室」 歌野晶午「天才少年の見た夢は」 法月綸太郎「あべこべの遺書」 有栖川有栖「船長が死んだ夜」 我孫子武丸「プロジェクト:シャーロック」 山口雅也「毒饅頭怖い 推理の一問題」 麻耶雄嵩「水曜日と金曜日が嫌い --大鏡家殺人事件--」

●謎の館へようこそ 白

新本格 30 周年記念アンソロジー (講談社タイガ) 東川 篤哉ほか

テーマは「館」、ただひとつ。今をときめくミステリ作家たちが提示する「新本格の精神」がここにある。

奇怪な館、発生する殺人、生まれいつる謎、変幻自在のロジック—!

読めば鳥肌間違いなし。謎は、ここにある。新本格 30 周年記念アンソロジー第二弾。

収録作品; 東川篤哉『陽奇館(仮)の密室』 一肇『銀とクスノキ ~青髭館殺人事件~』

古野まほろ『文化会館の殺人 —Dのディスペリション』 青崎有吾『喋ヶ森の硝子屋敷』

周木 律『煙突館の実験的殺人』 澤村伊智『わたしのミステリーパレス』



●謎の館へようこそ 黒

新本格 30 周年記念アンソロジー (講談社タイガ) 恩田 陸ほか



「館」の謎は終わらない—。館に魅せられた作家たちが書き下ろす、色とりどりのミステリの未来。

奇怪な館、発生する殺人、生まれいつる謎、変幻自在のロジック—。

読めば鳥肌間違いなし。謎は、ここにある。新本格 30 周年記念アンソロジー第三弾。

収録作品; はやみねかおる『思い出の館のショウシツ』 恩田 陸『麦の海に浮かぶ檻』

高田崇史『QED~ortus~—鬼神の社—』 綾崎 隼『時の館のエトワール』

白井智之『首無館の殺人』 井上真偽『囚人館の惨劇』

●漂流女子

中島 かおり 著

朝日新書

誰にも言えない妊娠を相談する窓口にんしん SOS 東京。そこに寄せられる SOS は、ほとんどが若年妊婦からだ。

虐待を受けた者、風俗から抜け出せない者、SNS で出会いを求める者。孤独な若者が抱える現代社会の闇を浮き彫りにする。

【第 1 章】 居場所を探し続けて—10 代で 2 回妊娠した少女—

【第 2 章】 相手は「SNS で出会った大人」

【第 3 章】 性風俗業の女性たちの決断—父親が誰でも「私の子」—

【第 4 章】 「誰にも言わず、1 人で赤ちゃんを産みました」

【第 5 章】 既婚者との子を産むということ

【第 6 章】 結婚したい女性、したくない男性—「産まない選択」にある背景—

【第 7 章】 中絶、心はどうなるか?

【第 8 章】 産んでも育てられない社会

【第 9 章】 浮かび上がる日本の課題

